

図表序-1 学部教育改革の内容整理

年	土台となった 答申	内 容
1991	大学審議会答申「大学教育の改善について」	✓ 大学設置基準の大綱化。 ✓ 授業科目区分（一般教育、専門教育等）の廃止。 ✓ 教授内容・方法の改善・向上への取り組み（ファカルティ・ディベロップメント：FD）の積極的な推進。 ✓ 授業計画（シラバス）の作成・公開。 ✓ セミナール形式の授業、ティーチング・アシスタント（TA）の活用等による双方向的授業の重視。 ✓ 単位制（1単位標準45時間の学修）を前提とし、授業時間数の時間規定を柔軟化。 ✓ カリキュラムの体系性の重視。 ✓ 自己点検・評価システムの導入（努力規定）。 など
1997	大学審議会答申「高等教育の一層の改善について」	✓ 各大学の位置づけを明確化（研究志向の大学、地域社会に生涯学習機会を提供する大学など）。 ✓ 大学卒業条件とする知識・能力を明確にし、授業科目やカリキュラムを検討。 ✓ 少人数・双方向の教育、実験・実習、フィールドワーク、ディベートなどの工夫により学習効果を向上。 ✓ セメスター制、クォーター制の導入検討。 ✓ シラバスの作成と内容の充実（事後学習等の指示）。 ✓ オフィスアワー、TA、履修科目数の上限設定の検討。 ✓ FDの組織的推進。 ✓ 自己点検・評価体制の確立、第三者評価の導入検討。 など
1998	大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」	✓ 教員の研究重視の姿勢を改め、教育活動への責任意識向上の必要性。 ✓ 教養教育の重視、専門教育の見直し。 ✓ 単位制度（1単位45時間）の実質化。シラバスに授業外学習を明示。 ✓ セメスター制の導入促進。 ✓ GPA導入、厳格な成績評価により質を確保。 ✓ 履修のモデルコース提示、履修指導教員の配置検討。 ✓ FD実施について大学設置基準での規定の必要性。 ✓ 自己点検・評価や学生の授業評価等により、大学および教員の教育活動を評価。 など
2000	大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」	✓ 少人数教育、オフィスアワー、TAを活用したきめ細やかな学習指導。 ✓ 大学教育課程内でのキャリア教育の実施。 ✓ FDの推進。 ✓ 自己点検・評価を、教育改善につなげる仕組みの整備。 ✓ 教育の質の向上のための評価体制の整備・確立。 ✓ 国際的に通用する単位累積加算制度の検討。 など
2005	中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」	✓ 計画・規制から、将来像の提示と政策誘導へ。 ✓ 機能別分化（7類型）による大学の個性・特色の明確化。 ✓ 三つのポリシー（アドミッション・ポリシー：AP、カリキュラム・ポリシー：CP、ディプロマ・ポリシー：DP）の策定。 ✓ DPによる出口管理強化。 ✓ 設置許可（事前評価）と認証評価（事後評価）による質の保証。 ✓ FDとスタッフ・ディベロップメント（SD）の実施。 ✓ 主専攻・副専攻制やジョイント・ディグリーの導入検討。

		✓ 学部・学科等の組織に着目した整理から、学位プログラム中心へと考えを再整理する必要性。 ✓ 単位制度の実質化。 など
2008	中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」	✓ 「何を教えるか」から「何ができるようになるか」へ。 ✓ 三つのポリシー（AP、CP、DP）の重要性の提起。 ✓ 学士課程共通の学習成果を「学士力」として提示。 ✓ 教育課程の体系化・構造化（科目コードの付記）の必要性。 ✓ シラバス、セメスター制、キャップ制、GPA等による単位制度の実質化。 ✓ 学習参加型授業、インターンシップ等の実施、TAや情報通信技術の活用による教育方法改善。 ✓ GPAの基準を共有、厳格に適用することで、成績評価基準を明確化。学習ポートフォリオの導入検討。 ✓ 初年次教育の導入・充実。 ✓ 学習成果や学習プロセスに関するアセスメント活動の必要性。 ✓ 分野別質保証の審議の必要性。 など
2012	中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」	✓ 能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換。 ✓ 主体的な学修時間の増加・確保の必要性。 ✓ 主体的な学修のためのシラバスの充実。 ✓ 授業科目ナンバリングによる教育課程の体系化。 ✓ 授業科目編成を教員中心から学位プログラム中心へ。 ✓ 学位プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー）で学修成果を評価し、プログラムを改善。 ✓ 大学教育の改革サイクルが機能する全学的な教学マネジメントの確立。 ✓ 授業科目の整理・統合。 など
2014	中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」	✓ APに基づく選抜。 ✓ 学力の三要素を踏まえた多面的な入学者選抜。 ✓ アクティブ・ラーニングへの転換。 ✓ 全学的なカリキュラム・マネジメントの確立（科目ナンバリングの導入、教育課程の体系化・構造化）。 ✓ 三つのポリシー（AP、CP、DP）策定の法令化の検討。 ✓ アセスメント・ポリシーを確立し、学修成果の評価方法を開発・実践。 など
2018	中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」	✓ 学修者本位の教育への転換。 ✓ 多様な学生の受け入れ（社会人、留学生など）、多様な教員（実務家教員など）の登用。 ✓ 文理横断的なカリキュラムの必要性。 ✓ 全学的な教学マネジメントの確立、学修成果の可視化と情報公表の促進。 ✓ 教育の質保証システムの確立に向けた、大学設置基準等の見直し検討。 ✓ 国公立の枠組みを超えた連携の推進。 ✓ 新しい資金循環メカニズムの構築。 など

2020「教学マネジメント指針」とりまとめ（中央教育審議会大学分科会）
 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営＝「教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営」の在り方を示したもの。

出典：各答申ならびにとりまとめに基づき筆者が作成。